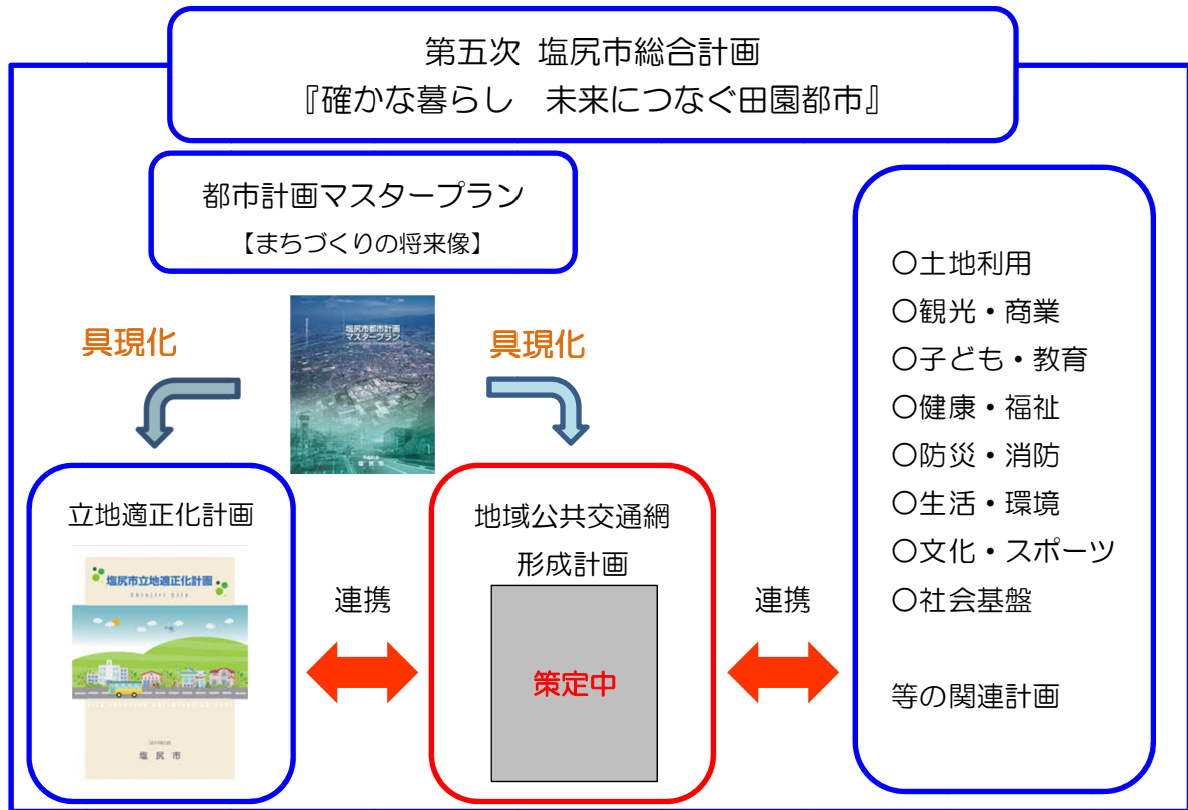


塩尻市地域公共交通網形成計画の策定について

1 地域公共交通網形成計画とは

地域公共交通網形成計画は「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすもので、国が定める基本方針に基づき、地方公共団体が協議会を開催し、交通事業者等との協議の上で策定するものです。

2 計画の位置づけ



3 計画策定において必要な法定記載事項

記載事項	概要	その他
①計画の区域	当該地域の交通圏の範囲を基に計画の区域を設定します。	今回の協議会
②計画期間	原則5年程度ですが、地域の実情に合わせて設定します。	
③計画の目標	④の基本的な方針に即して目標を設定します。	
④基本的な方針	計画が目指すべき将来像と、その中で公共交通が目指すべき役割を明確化し、取組の方向性を定めます。また、まちづくり、観光振興等の様々な分野との連携を整理します。	
⑤事業・実施主体	目標達成のために提供されるべき公共交通サービスの全体像・具体的なサービス水準を定めます。併せて、その実現に必要な事業・実施主体を整理します。	次回以降の協議会
⑥計画の達成状況の評価	達成状況の評価計画と評価を踏まえた見直し方針を立てます。	
⑦その他	その他、基本方針に基づき記載すべき事項があれば記載します。	

4 計画策定部会でいただいたご意見に対する考え方と対応方針について

No	意見内容	ご意見に対する考え方・対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> アンケート回答者で塩尻駅に来た人が最終的にどこに行くのを知りたい。最終目的地によって、路線設定も変わってくると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査データを確認し、次回の計画策定部会で塩尻駅以降の「最終目的地」をお示しさせていただきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> バス停の配置は、運転手の負担や交通安全から検討しても良いが、廃止による時間短縮は望めないので、廃止までする必要性は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> バス停の廃止については、時間短縮に寄与しないのご意見や、地元住民との調整を踏まえ慎重に検討してまいります。
3	<ul style="list-style-type: none"> 便ごとに遅延情報等をリアルタイムで情報提供（可視化）することや、ICカードによる精算により乗降もスムーズとなり、遅延解消に寄与することも考えられるため、導入について検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現段階で、ICカード導入の具体的な検討はありませんが、精算の円滑化のみならず、他分野とのデータ連携や移動データの蓄積を鑑み、検討してまいります。
4	<ul style="list-style-type: none"> 運行車両のダウンサイジング(小型化)について、マイクロバス等の利用者側の目線にたと、前の座席との間隔が狭いため、高齢者が乗り難いケースもある。乗りやすい車両の導入を検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1便あたりの乗車人員が3名程度の路線もあるため、運行経費の縮減、運転手確保を目的として、利用者の利便性を低下させない範囲で検討してまいります。
5	<ul style="list-style-type: none"> 路線の名称及びバス車両に大きくナンバリングすると分かりやすいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 利便性の向上に大きく寄与しますので、早期に導入してまいります。
6	<ul style="list-style-type: none"> 朝7:30頃の洗馬線は、小型バスで運行されているが、混雑して立って乗車している状況もある。利用者数に応じた車両を選択してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 運行事業者と調整し、便ごとの乗車人員に適した車両を選定してまいります。
7	<ul style="list-style-type: none"> 志学館と都市大の高校生が駅から歩くと20分程度かかるため、可能であれば朝と夕方だけでも高校を通る路線を結んでどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査により、高校生の登下校ピークが把握できましたので、実際の利用ニーズ等も鑑み、検討してまいります。
8	<ul style="list-style-type: none"> スクールバスや、企業の送迎バス等を公共交通に組み込むことも考えられるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画で、スクールバス等の様々な交通モードを見える化し、合理化してまいります。
9	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通網形成計画を考える上で、誰がどういう目的で使うのかというターゲットと、それにあわせてどんなサービスを提供するのかを明確にしておくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代、シニア世代及び高校生をメインターゲットとして、今後どのようなサービスを提供すべきか、検討してまいります。
10	<ul style="list-style-type: none"> バス停等の環境整備をどのように進めるのか。バス停は野ざらしなのか屋根付きなのか、拠点であればお店の中や駐車場に待合所を設けてもらえるのかといった環境整備についても検討することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> バス停等の環境整備については、地域によって求められる機能も異なることから、地域のニーズや費用対効果を検証し、実施してまいります。
11	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻駅で154万人/年、広丘駅で98万人/年と多く、3:2の割合になっているが、全ての路線が塩尻駅発着ではなく、広丘駅や村井駅発着のバスもあれば利用率があがるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の移動実態、ニーズ及び運行路線全体を検証するなかで、検討してまいります。
12	<ul style="list-style-type: none"> 特にワイナリーなどの観光資源が駅周辺にあるので、周遊できる路線を検討していただきたい。また、檜川線は長距離路線で時間も要するため、速達便の検討を進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本市の観光資源との連携は重要な部分であり、また、檜川線の速達便に対するニーズも高いことから、本計画で今後の方針について明確にしてまいります。